

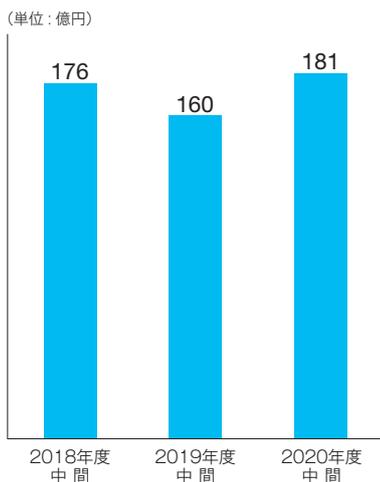
# 2020年度中間期決算について

※ 広島銀行の中間期決算となります。

## 損益の状況

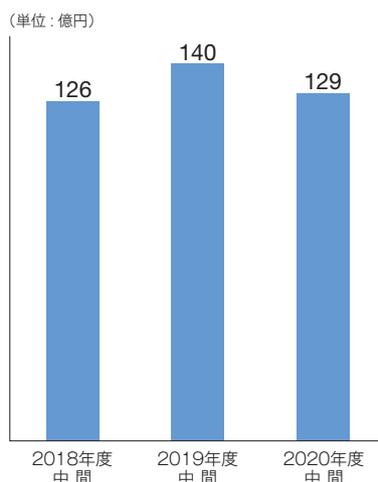
### コア業務純益 (除く投資信託解約損益)

181億円  
(前年同期比 +21億円)



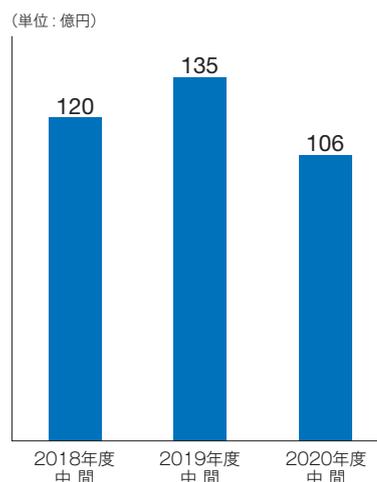
### 中間純利益

129億円  
(前年同期比 △11億円)



### 親会社株主に帰属する中間純利益

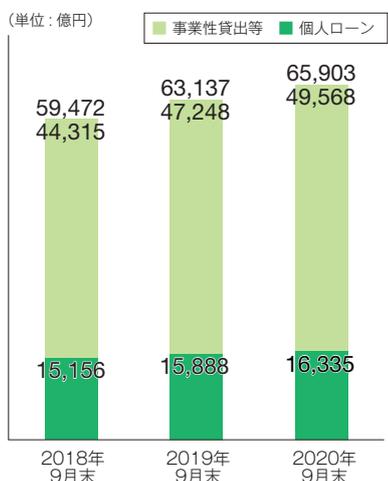
106億円  
(前年同期比 △29億円)



## 貸出金の状況

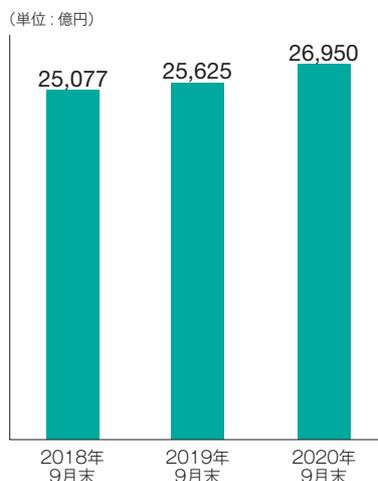
### 貸出金残高

65,903億円  
(2019年9月末比 +2,766億円)



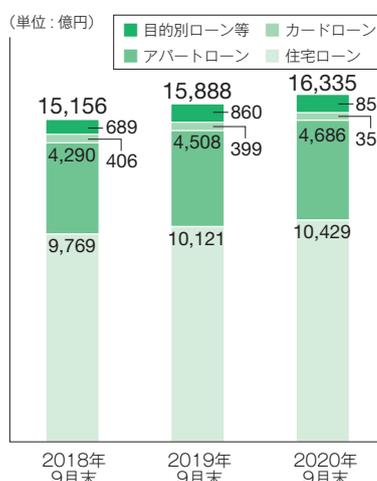
### 中小企業向け貸出金残高

26,950億円  
(2019年9月末比 +1,325億円)



### 個人ローン残高

16,335億円  
(2019年9月末比 +447億円)

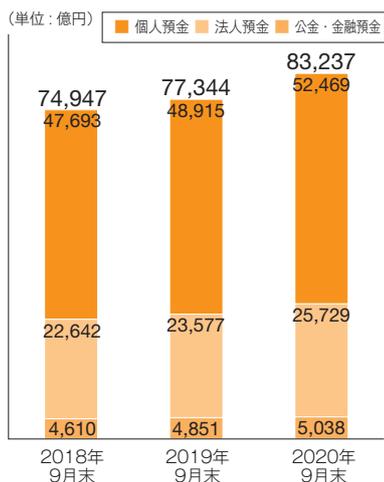


## 預金等の状況

### 預金等残高

83,237 億円

(2019年9月末比 +5,893億円)

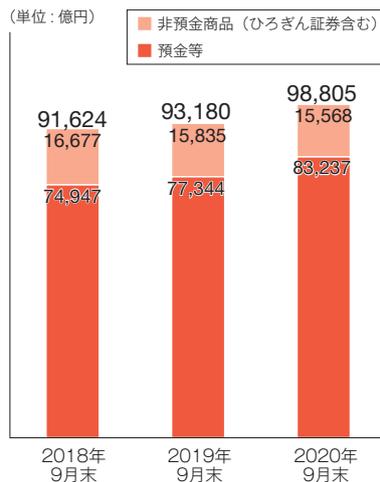


※ 預金等は、譲渡性預金を含んでいます。

### 総預り資産残高 (ひろぎん証券含む)

98,805 億円

(2019年9月末比 +5,625億円)



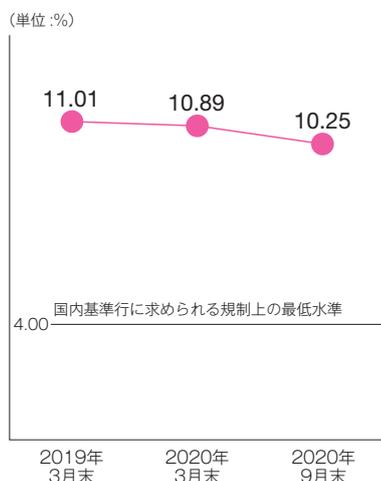
※ ひろぎん証券の非預金商品残高は時価ベースです。

## 自己資本比率の状況

### 連結自己資本比率

10.25%

(2020年3月末比 △0.64ポイント)

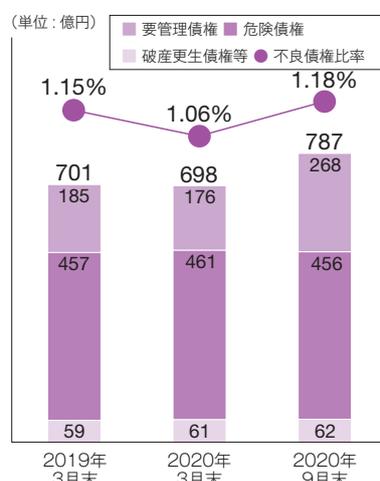


## 金融再生法開示債権額の状況

### 不良債権比率

1.18%

(2020年3月末比 +0.12ポイント)



※ 金融再生法開示債権額は、単位未満を四捨五入して表示しています。

## 用語解説

### コア業務純益

一般企業の「営業利益」に近い「業務純益」から特殊要因で変動する「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券関係損益」の影響を除いたものであり、より実質的な銀行本来の業務による収益力を表しています。

「コア業務純益」= 「業務純益」+ 「一般貸倒引当金繰入額」- 「国債等債券関係損益」

### 自己資本比率

銀行が保有する資産に対する自己資本の割合で、経営の健全性・安全性を表す重要な指標です。国内基準対象行には4%以上であることが義務づけられています。

### 不良債権比率

金融再生法に基づく「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」の合計額の、銀行の与信額全体（「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」に「正常債権」を加えたもの）に占める割合として表されます。